

ケーブル スマホ

JCTA方式の ケーブルスマホMVNO事業 コンセプトとその展開状況

極めて複雑な仕組みが必要になるJCTA方式<ケーブルスマホ>の展開マニュアルともいえるJCTAの資料の一部を抜粋して掲載する。なお、この資料は「第二回全国スマホMVNO研究会(松山大会)」でも使用された。(構成:天野昭/資料提供:JCTA)



「第2回全国スマホMVNO研究会」(松山市大会)には全国から100名が参加した



JCTA方式第1号<ケーブルモバイル>を展開している愛媛CATVの皆さん。惜しみなくノウハウなどを参加者に披露した

1. ケーブルテレビ連盟の無線利活用戦略の概要

基本的な考え方

① ケーブルテレビ業界のSWOT

* ケーブルテレビ業界の無線利活用戦略は以下のSWOTの観点から構築。

■ 強み (S:Strength)

- ・有線網設備等のインフラを有する
- ・顧客基盤・接点 (営業力、サポート力)
- ・地域との密着な関係性 (住民、自治体・公的機関、地域事業者等)、地域コンテンツ
- ・業界連携によるポテンシャル

■ 機会 (O:Opportunity)

- ・政府による競争促進策・関連規制の強化 (無線市場のオープン化等)
- ・技術標準化 (グローバル化) 等による機器・設備調達コストの低下
- ・東京オリンピック開催を契機とした通信基盤整備等の取り組み

み

- ・地方創生に向けた長期的取り組み
- ・地域アプリケーション重視へのシフト

■ 弱み (W:Weakness)

- ・無線インフラの欠如 (地域BWAのみ)
- ・固定系サービスへの高い依存度 (無線も含む事業再構築への対応力)
- ・通信政策への関与力・働きかけ

■ 脅威 (T:Threat)

- ・NTT東西「サービス卸」提供による同グループの市場支配力の増大
- ・固定系サービス需要の低下 (モバイルのみユーザの増加等)
- ・ケーブルテレビ事業の必要な収益源である放送サービス市場の競争激化 (モバイル向け映像サービス、OTTプレイヤーの参入等)